



# 泗水小だより



泗水小学校  
学校だより No24  
文責 芹川博文  
10月27日(金)

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」

## 澄んだ空気 秋は「本の世界」へ ～ 朝の読み聞かせで広がる空気 ～

空気の変化を感じた朝でした。1～6年生まで朝の読み聞かせが行われている各教室を回った時に感じた「やさしい空気」です。

PTA 一人一役の方、民生委員の方、地域のボランティアの方・・・沢山の方の温かいお力添えで、子どもたちは読書の良さを感じるひと時を持ちました。ありがとうございました。

そう言えば私もかつて、中学生に読み聞かせしたことを思い出しました。秋の夜長、本を手にとって時間を過ごすのもいいですね。



### オススメの本を紹介いたします

#### 「おおきな木」

シルヴァスタイン 作  
ほんだきんいちろう訳

1本の木と少年との物語。少年はやがて大人になり・・・大人でも(こそ)考えさせられる絵本です。以前、中学校の英語の教科書にも載っていました。



#### 「ワンダー」

R.J.バラスオ 作  
中井 はるの訳

「オーガスト・ブルマンは、普通の男の子。ただし、顔以外は。」  
映画にもなった感動の一冊。  
「もうひとつのワンダー」、  
「365日のワンダー」も是非。



## 「手紙が 宝物のようです」 ～ 言葉が相手の心を元気にする ～

「手紙を読んで、あまりにも感動したので・・・」クラブ活動で昔遊びを教えていただいた方から、こんな嬉しい言葉をいただきました。

今週のクラブ活動の最後に、子どもたちはお世話になった地域の皆様にお礼のお手紙を渡しました。

その手紙は相手の方を感動させ、「宝物のようです」とまで言っていただくパワーとなる・・・。

この出来事を「手紙の主」に話すと、控えめながらも嬉しそうに、この便りに掲載することを了承してくれました。まさに心のキャッチボールですね。しかもそのボールはどんどん大きくなるようです。これからも「こんな心の通い合い」を大切にしていきたいと思わされた出来事でした。

#### お礼の手紙

私は、昔遊びは一度もやった経験がなく、とても楽しみでした。でも、やってみたら気づいていないうちに一度はしたことのある遊びだったので、何年かたった今でも昔の遊びは愛されていて、だいたいの人が身近に遊んでいる遊びの中にあっただけで「すごいなあ」と思いました。

あやとりの練習をしたら、一人あやとり、二人あやとり、ほうき、マジックなど色々な技ができるようになりました。お手玉をしてやっているところを見たら、一見簡単そうに見えたけど、やってみるととても難しかったです。手袋で、お人形を作ってみて簡単だったので、いとこの妹に遊ばせてみたら、とても笑顔になったので、昔遊びは人を笑顔にするパワーがあるんだと改めて実感しました。4時間の短い時間だったけれど、色々教えてくださってありがとうございました。私が大人になっても昔遊びの楽しさを広めていきたいです。  
4年 かん ゆう花

## なかなかの味わい深さ ～ 靴箱から伝わってくるもの ～

靴箱を見るのが好きです。きれいに運動靴が並んでいる靴箱もいいし、放課後の夕陽に照らされた靴箱も、なかなかの味わいがあります。目に留まる場所があります。靴がないところ、斜めになった靴、たまには外に飛び出している靴も。最近感じることは、かかとの踏みつけられた靴が減ってきたことです。物を大切にする心が育ってほしいと願います。

それぞれの家から「行ってきます」と玄関を出て、一日を学校で過ごし、帰っていく子どもたち。様々な思いが感じ取れる場所であり、「明日が楽しみ」と言える泗水小にしていかなければと思わされる場所です。

